

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和2年11月12日 5校時

児童 6年1組 男子4名女子5名 計9名

指導者 伊藤 成哉

1. 単元名 表現の工夫を探そう ～『鳥獣戯画』を読む』の人類の宝なのか中には、表現の工夫が何個あるか？～

教材名 『鳥獣戯画』を読む』（7時間）

2. 教材について

本教材『鳥獣戯画』を読む』は、筆者の故高畑勲氏による絵の解説と解釈、その評価が明確に表されている文章である。絵と文章を照らし合わせて書かれており、書き出しや文末表現、一枚の絵を切り離して提示する仕方など、子供たちが自分の見方と比較しながら、筆者の表現の工夫を学ぶのに適した教材である。

3. 児童について

児童はこれまでに、第6学年の「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」の学習において、事例の有効性、妥当性、筆者の論の進め方を考える学習をしている。引用された事例は筆者の主張を支えるものになっているか、論の進め方などに対して、自分なりの納得度を示しながら自分の考えをまとめてきた。その中で、説明的文章は、読者に主張を伝えるため、相手に寄り添った文章の書き方や事例の挙げ方が大事だと学習してきた。一方で、事例の順番（論の進め方）には筆者の意図があること、それらについての考えを再考・整理したり、友達と比較検討したりしながら自分の考えを深めることに関しては、課題がみられる。

本単元の学習を通して、筆者の表現の工夫を探し出す活動を通して、論の進め方・筆者の話題提示の順番に読む意識をもち、同じ筆者の論文と比較することを通して、筆者が相手に伝えたいことをどのように表現しているのか、という表現の工夫について考える学習を行いたい。

4. 指導にあたって

本単元では、筆者の論の進め方と要旨を伝えるために使っている表現の工夫を理解することを重点として指導する。そのために、筆者の絵の着眼点・解説・評価の叙述に着目しながら読む学習を行う。また、同じ筆者の違う文章と比較して読むことを取り入れ、表現の違いを見つけやすくする。また、「表現の工夫は何個あるか？」という単元の課題を提示し、見つけた表現の工夫が増えていくことで、より表現方法について考えを深め、工夫を見つけた実感を味わい、次の「見つけた技を生かして書く単元」へとつなげていきたいと考える。教材から表現の工夫を探す言語活動を位置付け、見つけ出す度に児童が自分の学びと成長を感じられるようにしたい。

児童が単元を通して資質・能力を身に付けていくために、下記の点を工夫して指導にあたりたい。

単元の導入においては、鳥獣戯画の一場面を提示し、自由に意見交流させることで、この絵を「読む」と題名を付けた、筆者の意図を考えさせながら感想を書くことを意識づける。

構造と内容の把握では、絵とそれを解説している叙述をそれぞれ結び付けながら全体を俯瞰し、大まかな内容を捉える。

精査・解釈では、本文中の絵の解説部分と評価部分の叙述を精査し、その解釈を考えることで表現の工夫を明らかにしていく。さらに、論の進め方が既習の説明文と異なることに着目し、「人類の宝」と表現している絵の良さを伝えるために、筆者がとった表現方法を考えながら文章を解釈していく。

考えの形成では、精査・解釈で考えてきた説明の工夫を基に、本教材と筆者のもう一つの文章と比較することで、本教材絵用いられている表現の工夫について、さらに考えを深めるようにしていく。そして、自分で使ってみたい表現の工夫について、考えをまとめる活動をする行う

共有・振り返りでは、自分で使ってみたい表現の工夫に焦点を当てて発表、交流することで友達との選んだ理由の違いに目を向け、考えが深まったり広がったりしたことに気付くことができるようにする。

5. 本時の指導（5・6／7）

（1）本時の目標

同じ筆者の高畑さんの違う論文を比べながら読むことで、表現の工夫についての理解を深めることができる。

（2）本時の展開

	学習活動	学習内容	指導上の留意点と評価
つかむ 5	1. 課題をつかむ。 高畑さんの「後輩の皆さんへ」と『鳥獣戯画』を読むを読み比べて、見つけた表現の工夫をまとめよう。		<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに見つけた表現の工夫と比較しながら読むことを意識させる。 ・引き出すために示す観点は、「読者を引き付けるための工夫」「絵を理解させるための工夫」「主張を理解させるための工夫」等を示す。
	2. 学習を見通す。		
考える 75	3. 課題を解決する。 (1) 論文を読んで、表現の工夫を探す。 【個人】㉕ ・論文の表現の工夫に印を付ける。筆者が工夫した理由を考えて書く。 【ペア・グループ】㉖ ・印を付けた工夫と、その理由を交流する。交流により出た気づきや発見は追加・修正を随時行う。 【全体】㉗ ・個人やグループで考えたことを基に、全体で話し合う。表現の工夫と理由を述べながら友達との共通点や相違点を見つける。 (2) 考えをまとめる。㉘ ・話し合ったことも自分の考えに入れながら、今までに出てきた表現の工夫をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・二教材を読み比べ、見つけた表現の工夫の一致点と相違点を探すことで、論の進め方や文体や表現の違いがあることに気づき、本教材の表現の工夫に対する理解を深めること。 【観点】・論の進め方・事例・要旨・対象読者 ・主張や目的によって論の進め方や表現方法が異なることを知る。 ・友達の考えとの共通点や類似点に着目して使われている表現についての感覚を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二教材の表現の違いをに着目させ、書き出しの工夫や体言止めなど見つけやすいものから印を付けさせる。 ・読者の対象が違うこと、自分の考えを伝えることと絵の良さを伝えることの違い、対象の違いに気付ける助言をする。 ・二教材の論の進め方の違いについては、児童の言葉をいくつか紹介し参考にさせる。 ・考えの追加はいつでも自由であると伝える。 ・問い返しによって、共通点や相違点に気付かせる。 ・板書や発言を参考にしながら、表現の工夫への考えをまとめさせる。
	<p>まとめ（例） 高畑勲さんが使った表現の工夫は「 個」ありました。その中でも優れている表現は、「読者を引き付ける表現の工夫」だと思います。それは、この文章には今までに無い型ですが、読者に呼びかけるような表現や体言止めや呼びかける文章から初めているからです。また、文章が進むに従って、絵巻物の解説や、アニメーションとの関わりを書き、最後にまとめてこの絵巻物を守ってきた歴史についてまとめた上で、「人類の宝」と、まとめている所が素晴らしい論の進め方の工夫だからです。私は読者を引き付ける書き出しの工夫が足りないので、次は自分の文章で使ってみたいです。</p>		<p>評価規準 【思】 発言、観察、付箋</p> <p>二つの文章を比べて読み、理解したことに基づいて、筆者の説明の技についての自分の考えをまとめようとしている。</p>
振り返る 10	4. 振り返る。 ・本時の学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えで、自分の中に取り入れたことについて振り返ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを発表し、学習したことを実感できるようにさせる。

『鳥獣戯画』を読む

高畑 勲

高畑さんの「後輩の皆さんへ」と『鳥獣戯画』を読む」を
読み比べて、見つけた表現の工夫をまとめよう。

鳥獣戯画は素晴らしい

書き出し

呼びかけ
表現

表現の工夫

言い切り
体言止め

絵の提示方法

事例

日本文化の特徴・人類の宝 高畑さんの主張

高畑勲さんが使った表現の工夫は「個」ありました。

その中でも優れている表現は、「だ」と思います。

それは、からです。

また、からです。

これらの表現について、私は
と思います。